



## 「名村テクニカルレビュー」 第16号発刊に際して

常務執行役員 岩切 辰美

我が国経済は、歴史的な円高をようやく抜け出し、円高修正による経済効果が徐々に表れてきており、デフレからの脱却は現実味を帯びてきたようです。しかしながら、製造業を取り巻く環境は、依然として厳しい状況が続いています。

船舶、橋梁、産業機械のメーカーである弊社グループにおいても同様であり、特に、船舶においては、供給過剰、海上荷動き量の減少による船価低迷などまだまだ先の見えない状況にあります。

これまで日本の造船業は、信頼性の高い良質な船舶を建造することで、長年にわたり世界の海上輸送を支えてきましたが、現在では環境問題即ち地球環境保護への取り組みが活発となり、CO<sub>2</sub>の排出規制やエネルギー効率改善への取り組みなど、より一層の建造技術や最先端の環境技術が求められています。

今年の前半は、海外船主を中心に我が国造船所への発注が続きましたが、これは、最新鋭のエコシップ、品質などが改めて見直され発注に結びついたものであると考えます。製造業の原点である“安くてよい製品”を造り続けることが改めて見直されてきています。

益々厳しくなる規制改正への対応や燃費性能の向上、新技術の導入などと合わせ、当然のことながらコスト面での低減技術が求められることは言うまでもありません。

また、一方で製造業を取り巻く環境は、ものすごいスピードで、非常に大きく変化しており、この変化に対する適応力がなければ淘汰される時代です。物事の変化が速く、且つ激しい時代をどう生き抜いて行くか、多様化するお客様の要望や、時代のニーズをより早く捉えその要求に如何に対応していくか、正に“技術力”が求められます。

研究専従者がいない弊社グループでは、それぞれの技術者がそれを持つ必要があります。その為には常に学び続ける姿勢をもち、情報、知識、経験やテクニックを習得せねばなりません。そして一人ひとりの技術力を結集して、お客様の要望や時代のニーズを把握し、それに応える製品を造り出していくことで“技術力のある製造業”として生き残れると確信します。

本技報も今回で第16号を発刊することとなりましたが、弊社グループの一人ひとりが常に技術力の向上を目指し、多くの課題に果敢にチャレンジしてくれた成果の一部を掲載できたことをうれしく思うとともに、これからも先輩諸氏によって築き上げられてきた伝統と技術を継承しつつ、社会から必要とされる会社を目指して日々技術の更なる向上に取り組んで参ります。

本テクニカルレビューを読まれた多くの皆様から忌憚りの無いご意見を賜れば幸甚です。

今後ともより一層のご指導、ご鞭撻を賜ります様お願い申し上げます。